

日 時 平成25年1月17日(木) 14:00～16:30

会 場 高知共済会館 桜

出席者 尾原賢治会長、土居英一副会長、梅原俊男委員、川村泰夫委員、
下司眞由美委員、竹内信人委員、田邊裕貴委員、谷脇澄男委員、
中村光宏委員、中脇正人委員、橋本万里子委員
教育次長(中山)、高等学校課長(藤中)、高等学校課企画監(森本)、
高等学校課長補佐(小野)、特別支援教育課チーフ(平石)、
高等学校課チーフ(竹崎、北村)、高等学校課指導主事(3名)

欠席者 高月琴委員、中山美佳委員、正木敬造委員、濱口知恵委員

1 開会

(1) 日程説明、資料確認等

【配付資料】

- ① 次第
- ② 座席表
- ③ 県立高等学校再編振興計画の策定について
- ④ 報告書目次(原案)
- ⑤ 資料1 第7回県立高等学校再編振興作業部会 資料
- ⑥ 資料2 報告書の作成に向けて

2 内容

(1) 第8、9、10回県立高等学校再編振興検討委員会の概要

(会 長) 確認事項に進みたい。「第8、9、10回県立高等学校再編振興検討委員会の概要」について事務局から説明をお願いします。

(高等学校課再編振興担当チーフ:以下チーフ) 県立高等学校再編振興計画の策定について及び資料1の説明。

(会 長) 事務局から説明があったが、何か質問や意見はないか。

(委 員) 意見なし。

(会 長) P10の委員長私案の内容は、事務局の方もこれでいいと思っているのか、委員長だけの考えによるものなのか。

(チーフ) これは、検討委員会委員長の私案である。

(会 長) 検討委員会委員長だけの私案ということだが、嶺北地域の拠点校というと嶺北高校しか考えられない。

(チーフ) 資料1 P11アクションプラン7地域の説明

(会 長) 嶺北地域には嶺北高校だけだが、それでも拠点校という視野に立っているのか。

(高等学校課企画監:以下 企画監) 私案としてはそういうことで、拠点校というのも、進学の拠点とかスポーツの拠点とかという考え方だけではなくて、地

域コミュニティなどの中核となるか、学校にはそういう位置付けもあり、そのような場合でも地域的には中心的なものになるだろうという意味の拠点ということであり、若干、進学の拠点という意味とは違う部分としても使われている。

(委員) 2点ある。1点目はここで何回も出ていて、P10の私案でも出ている適正規模だが、記憶違いであれば申し訳ないが、新聞の報道で本校の最低規模の基準が20名というのが出ていたような記憶がある。学校現場では、それだったら分校と同じではないかということで、少し周りがざわざわとなったようなことがあったので、まず、この1点についてどういうことか教えていただきたい。資料では、このP10でもそうだが、本校1学年2学級以上、分校は1学年20人以上だったと思うが、たぶん新聞は、本校最低基準20人というのが出ていたように思うのだが。間違っていたら申し訳ないです。

(企画監) 新聞は昨年12月28日の高知新聞の朝刊に出ていたと思うが、本校の最低規模1学年20人とする考えをまとめた、と書かれている。確かに、先程も説明させていただいたように、学校の集団としての最低規模は20人だと言ったのでそのところと一致させた表現ではないかと思う。この20人という考え方は集団としての規模のことで、例えば、前に条件があって、検討委員会の中で出た意見は、高知市及びその周辺と、中山間地域を同じような基準で考えることはどうだろうかというような発言があったうえでの、本校2学級というのを削除するなど規模の見直しを考えたかどうか。そういうことだったら、それを撤廃すると集団としての最低規模が基準になるので、中山間地域でその枠を除いた場合は、本校であっても1学年20人になるということである。ですから、新聞のほうはそのようなところがちょっと抜けているように思うが、事務局としては一律全部を本校最低規模1学年20人にまとめたということではないと認識している。新聞のその部分をお配りしているが、最初の概要のところの3行目くらいのところにその表現があると思う。

(委員) ありがとうございます。もう一つ、このP10の私案について、また次回の検討委員会で検討されるということなので、少し考えていただければいいと思うので、発言をしてみませんか。

一つは委員の皆さまからも出ていた意見ではあると思うが、基本の考え方として、産業振興計画との連動ということである。この再編振興の基本的な考え方の柱にしていくということで説明があったが、確かにそのような考え方もあるのかも知れないが、地域振興や産業振興のために高等学校がいかにあるべきか、ではないと思う。検討委員会のある委員も言われていたと思うが、高校教育のために、地域とか産業が、社会の中で果たす役割が何なのかという考え方であるべきではないのかと思う。例えば、地域とか産業振興のために高等学校を地域に残す、産業振興のためにすべて残すということで、それぞれの地域であればそうあってほしいと思う。高等学校は山間部などいるんなところにあつたらいいと思うが、産業振興、地域振興ありきというの

は違うような気がする。具体的に言えば、それぞれ地域に残って、地域とか産業とかいろんなところが、そこで高校生の雇用を確かに保障してくれるのか、という今もそのような現状ではない。それはなぜかといわれると、基本的な生活習慣が身に付いていないとか、学力が定着していないとか、様々な理由でなかなか雇用には結び付かない。そうすると、地域振興や産業振興のために高校を残すというふうなところと、連動して何かがあるのかという、何もないというのが、検討委員会での発言にもあったが、そこはそうだなと思う。大卒の考え方の根本に連動というところを、というのは少し分かるが、考えていただけないのかなということも思ったので、発言させていただいている。

他にも、いろいろ申し上げると、例えば、高知市内の一極集中の回避ということがあるが、高知市も一つの地域と考えれば、高知市の保護者の方は子どもを高知市の高校に行かせたい、というようなことがある。

あと、県外からの生徒の確保ということで、県内でも、高知市内の子どもたちがいろんな地域に出ていない状況の中で、県外からの生徒がどのような魅力を感じて来るのかという、少し疑問である。各学校が努力をして、現在も大変な努力をして、県外からの生徒もいろんな形でアピールをして受け入れるということをやっている。やっている現状が今ある。これを更に超えるものとして、どんどん県外にアピールしていくというのは少し違う気がする。

あと、ここは言葉の問題だが、多様な生徒に対する多様な受け皿、受け皿という言い方は現場の教員としては、少し納得のいく表現ではない。結果としてその学校の教員がそういう発言をするのかもしれないが、そういうことは、やっぱりあってはならないと思う。多様な生徒が行くことのできる学校ということであればいいと思う。受け皿とはなんなの、受け皿がざるだったらどうするのか、受け皿という言葉に非常に反応して申し訳ないが、これはちょっとどうなのかと思った。

これの左側で、繰り返しになりますが、産業系は各エリアの産業振興が目指す方向性を考慮しながら出口教育の充実を図るとあるが、これは高校教育では、まさに進学も含めて、就職ということであるので、ここが具体的ものがなければ到底ここにある連動した計画というのは非常に納得ができない。現場の教員として納得ができないと思っているので、発言をさせていただいた。

(会 長) まだあると思うが、報告書に向けた作業で、報告書の作成に向けてという資料があるので、その内容について、先程委員からあったことがたくさん出てくるので、先に行きたいと思います。では、「報告書の作成に向けて」について説明をお願いします。

(2) 協議事項

・報告書の作成に向けての意見の整理・検討

(会 長) それでは、協議事項の「報告書の作成に向けての意見の整理・検討」に

ついて事務局から説明を願う。

(チーフ)「資料2 報告書の作成に向けて」の説明。報告書目次(原案)及び資料2Ⅲ3⑥(P15 3行目)まで。

(会長)ここでいったん切りたい。P13に総合学科のことがある。現在の配置を維持することが望ましいと言っておいて、しかしながら、生徒数の確保が困難な状況が続き、総合学科としての十分な教育を行うことが見込めない状況になった場合には、普通科等への改編も考えられるという形にはなると思うが、両方を書いてあるので、どこの項目もそうだが、いい面と悪い面と両方書いてある。我々としては、どちらかの方寄りの意見を言えば良いのか。それとも報告書自体に、両方載るのか、どうか。

(企画監)総合学科の話であれば、県全体を見たときには、現在の配置を維持することが望ましいが、例えば、総合学科を置いてある学校に十分に生徒が集まるのであれば、当然各地域に配置することが望ましいが、総合学科で維持するためには選択の幅であるとか、一定の先生の数が必要になったら、生徒の集まる規模によっては、極端に言うと、40人に満たないくらいの数になれば4つの系列とかそういう系列を維持することができなくなる。そうなったときには、総合学科ではない方法も考えなければならぬのではないかと。ということで、全体的な方向としては、総合学科は県全体に置いた方が良い。ただ、地域によって人が集まらない状況になってきたときには維持できないので、次の対応を考えてくださいという意見である。これはあくまでも、先程言われた、相対する両論ではなくて、一義的には置いておいた方が良いという意見であったと認識している。ただ、それを維持するときに、規模の問題で維持できない時には、いつまでたっても小さい規模で総合学科というのは、教育的にも構想的にも難しい面があるので、次の対応ということになっていると思う。そういうところを補足的に意見をいただいたり、反対の意見をいただいたりすることは有難い。

(会長)(3)生徒数減少に対応する学校規模のところでは、かなり数字的なものがあるので、ここではいろいろな意見が出るかもしれない。これまでの内容的なところで、そういう方向で、それぞれの立場で良いか。良い面と悪い面の両方の意見を書いてくれている。

(企画監)総合学科のところでは、維持できても、ない方が良いというような意見があれば、そのような話をしてもらえればよいが、総合学科の維持については作業部会から出た意見を検討委員会に挙げて、それを確認してもらったという形になっている。資料2を見ていただいて、特に数字的でないところについて、異論がなければ、承認していただければ有難い。

(会長)まず、P6までで何かないか。

(委員)意見なし。

(会長)それでは、P7からP15 3行目までで何かないか。

(委員)先程、委員長私案について発言させていただいたが、P7の再編振興の基本的な考え方のところである。一つ目の○の2行目の「産業振興計画等と

関わり」というのは、分かる。その次の、「子どもたちがもっている、将来の目標に向かって等しく挑戦するための『可能性の平等』を担保するための教育環境を整備する。」というのが分かりづらい。地域の産業を支える人材を育てると言いきっているのに、これが考え方の一番にきているので、可能性の平等を担保するための教育環境を整備すると言ったら、人数が少なく学校の規模が小さくても、その地域で高校に行きたい子どものためのというか、うまく言えないが、それぞれの地域、それぞれの立場の人がいいように読み取れるような表現なのかなと思う。こういう表現をしてくださいとは言えないのだが、ここの表現が変わらないかなと思う。

(企画監) 分かりづらいという意見を受け止めるという形で対応させていただくということ、まず言わせていただく。「可能性の平等」というのは先程説明させていただいたように、検討委員会の委員長の言葉で、委員長の意味することは、高知県の中山間地域や都市部などいろいろな地域であっても、その子どもたちの可能性がつぶれることのないように教育の環境がそこにあるという状況を作るということである。ただ、そうすると行きたい、進みたい方向、普通科、工業、商業などいろいろあって、全地域で通えるところにそれを網羅することはできないので、そうすると、次のステップに進む基本的な高校教育の部分は担保する必要があるのだということ、事務局でも話をしながら、この意見をもらって委員長と詰めてできるだけ分かりやすい表現にしていこうと思う。そういう観点で、分かりにくいところをチェックをしていただいても有難い。

(会長) 南海トラフ巨大地震への対応は、大見出しにする必要があるのか。大きなことではあるが、報告書にそぐわないような気がする。

(チーフ) 再編振興計画の検討に入った段階で大きな課題の一つとして、南海トラフ巨大地震への対応というものを、こちらが示したので、課題の一つとしてここに大きな形として入れている。それについていろいろご意見いただきたい。

(会長) これは、教育内容というよりは自然災害に対するものなので、わざわざ再編振興計画の報告書の大見出しに入れる必要はないのではないかな。もちろん、入れることは否定するわけではない。また、検討していただきたい。他にないか。総合学科についてはこの文面でよいか。

(委員) 危惧しているところは、学校の規模の問題にも関わってくると思うが、総合学科のことでいえば、例えば2学級が維持できなくなれば、総合学科をやめて、普通科に戻るといったようなことを意味していると捉えていいのかな。

(企画監) 結果というわけではないが、そういう意味である。全国的に見ても、2学級での総合学科というのは、数は少ないがある。1学級での学校の中での全日制総合学科というのは、私どもの調査では把握していない。2学級規模であれば単独の高校として、総合学科を存在できるのかなとは思っているが、それ以下になると今の段階では難しいのではないかなというのが、今のところの見解である。

(会長) 2点ある。一つ目は、P 9②中高一貫教育のところで、「中学校入学段階の入試制度の在り方を考える必要もある。」とあるが、具体的にはどうするのか。国レベルのことになると思うが具体的な策があるのか。二点目、P 11 オの水産のところだが、○の3つ目の文章「小中学生が水産に関わる職業に触れることが少ないことなどから、この学科への理解が進んでいない状況がある。」というのが分かりにくい。

(企画監) P 9「中学校入学段階の入試制度の在り方を考える必要もある。」ということであるが、国の極度の受験の競争にならないようにということを十分に承知をしたうえで、ただ、6年間を通して進学ニーズがあるので、進学を念頭に置いたときには、在り方自体で国の考えに反するわけではないが、一定全国的なやり方を研究し直した考え方がいるのではないかとということで、具体的にどうするのかについてはもっていない。ただ、意見としては、これも必要であるということがあったので、もし、進学というところを念頭に置いたものであれば過度の競争にならない、なおかつ進学指導体制がうまくいくような体制について研究する必要があると考えている。P 11は、言われるようにもうちょっと言葉を選ばないといけない。意味は水産が航海や機関である部分、水産の加工である部分があるが、多くの小中学生が関わる部分はないと思うので、ここでやっていることを例えば、中学生に対する高校の説明会であるとか、地域との連携などの中で示していくという、産業系専門学科全体に関わってくることだが、やっていることのPR（広報活動）をもっとしていきましょうというということである。そういうふうに捉えていただければと思う。

(会長)「就職に結び付いていかない状況がある」は、いらないのではないかと。要は実習船を開放して小中学生に理解を深めさせるということだと思う。P 12の福祉のところだが、福祉の分野は就職も今ニーズが高い。給料が安いとかしんどいとかいうことはあるが、これから福祉の方は、どうしていくかということはどうか。専門学校に全部任せるのか、あるいは、今後高等学校でも何かそういった方向性があるのかというのは報告書にどう表れるのか。

(企画監) P 12の2つ目の○に、考え方としては、検討委員会や作業部会で意見をいただいたのは、誰もが安心して暮らせる社会をつくっていくために、高等学校段階においては福祉に関する基礎的な知識を身に付けさせる必要があるということである。また、具体的な配置のところでは、配置の4つ目の○に「福祉系分野が学べる系列や類型などを各地域に配置する必要がある。」としている。科ということ自体は言われていないので、類型や系列を4領域にするのか、それ以上細かくするのは問題になるが、一定全国的に配置するという方向で意見をいただいているということ載せていけるのではと思っている。高等学校を出たらすぐに働けるというのではなく、上級学校に進んだうえで技術的なことは身に付けるというのがベースにある。

(会長) 定時制やP 14⑥不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害等のある

生徒に対応できる学校のところはどうか。30分授業というのはどういうイメージのことか。

(チーフ) 東京都のエンカレッジスクールという学び直しを必要とする生徒を対象にした学校で取り入れられている制度で、1年生の段階で午前中の3時間を30分ずつ授業をして、中学校段階の基礎基本的な補習をしながら、やっていくような授業になっている。3時間であるが、単位は2単位でカウントしている。

(会長) 30分授業というのはかまわないか。

(高等学校課長：以下 課長) 30分で1単位とは認めていない。3時間あれば90分であるから、それを2コマとみて、45分、45分で2時間分と見るといった形で対応していこうというシステムである。

(会長) P14に「工業に関する学科が設置されている定時制2校は地理的に近く、生徒の通学状況や教育内容を考慮した配置を検討する必要がある。」とあるが、具体的には高知工業高等学校と高知東工業高等学校のことか。

(企画監) そうである。

(会長) こういう形で出るのか。

(企画監) 定時制の工業関係はその2校だけなので、出すことになればこの形になる。

(会長) 特定できるのでどこまで具体的に出すのかなと思った。

(企画監) 配置を検討する必要があるというところまでしか意見をいただいていないので、何らかの検討をしなければならないと思っている。

(委員) P14⑥不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害等のある生徒に対応できる学校のところに「高等学校では、発達障害等のある生徒に対して個別の指導計画の作成状況が十分でない現状がある。保護者と学校、小学校と中学校と高等学校とが現在以上に連携し、生徒の将来を見据えた個別の教育支援計画のもとに一貫した教育的支援を行う必要がある。」とある。個別の指導計画の作成とか支援計画をもとにしたということで、こう出ると作成しなければならぬという感じが強くなる。実際に、高等学校でも診断名の付いた生徒がたくさん入ってくる。今後、大きな規模の学校でそれがすぐ対応できるのかというと、なかなか難しい。教員の配置とかがあればできるのかなと思うが、まだなかなかできない状況があるので、具体的にこういうように出ると、ちょっとできないかなと思う。もちろんやった方がいいということは分かっている。

(課長) この部分は今も言っていることで、例えば大学受験をする際にはこれがなかったらセンター試験の対応、特別な配慮ができないという現状がある。県教委としては、発達障害等の指針を出してその中に、すぐに全部100%という話にはならないと思うが、順次そういった考え方を基に、幼小中高というように続けていってそういう計画を作っていけば、それをもとに引き継ぎができ、指導の対応がよりきめ細やかなものができるということで今も是非やってくださいということで行っている。その延長という風にご理解いた

だきたい。この計画が26年度に出ればすぐに100%という話にはならないと思うが、進めねばならないことだと理解しておりこう書いていただいている。

(委員) 十分理解をしているが、実際にはなかなか難しいので、改めて再編のところにこれが出てくると、やっぱりすごく強制力が働くのかなと思う。実際には、もちろん大学入試等でやっているが、指導計画や個別の支援計画になると、それぞれの手腕というか特別支援学校で行っているようなイメージをもつのでそのレベルを要求されているのかなと思う。今、現在もみなそう思っているので、なかなかそこまではできないという意味のできない、やっていないということである。

(課長) 書きぶりが、高等学校に、特化したような形になっているが、要は趣旨としては、幼保の段階から引き継ぎで小学校、小学校から中学校、中学校から高校とその子どもを見据えた連携をしっかりとってという意味なので、言葉の加減が高等学校が是非やらないといけないというような感じにはしないような形に、全体を通して進めていかないとけないといったご意見だったと思うので、そこは文章的に見直していく。

(休憩)

(チーフ) 資料2「報告書の作成に向けて」P15以降を説明

(会長) 何か意見はないか。

(委員) P17の一番上に「高知市及びその周辺部と、本県の中でも過疎化が著しくかつ近隣に他の高校がない場合とは分けて考えなければならない」という意見があり、P19の最初の○はこれに関連した内容で、2つめの○は「地域によっては最低規模を1学年1学級などの措置を講じることも考えられる」となっているが、例えば室戸高校や清水高校のように、これからも生徒が減少し鉄道等の通学手段もないような地域では、1学級でも本校として残れるということなのか、そうすると1学年1学級20人以上という分校の最低規模とも関わってくるが、今後、このあたりの整合性をどのようにもたせるのか気になる。また、地域によっては最低規模を1学年1学級などの措置を講じるというところで、難しいことは分かっているが単純に1学年1学級と学級数を減らすのではなく、学級の定員40人を35人とか30人の特例として、本校の最低規模は1学年2学級、ただし特別に不便なところは学級の定員数を減らすというようなこともできないかと考えた。

(企画監) まず、本校と分校の整合性については事務局でも検討したが、どういう考え方をしないといけないかということは、まだまとまっていない。ただ、集団としての規模が20人ということなので、本校であれ分校であれ、一定県が判断した場合には20人というところを最低ラインにしないといけないということがある。そうした時に本校、分校ということはあるが、今まで安易な分校化はしないということもあるので、このことも含めて判断しない

といけないと思う。報告書では、そこまで意見がないので少し包括したような内容になるのではないかと思っている。次の30人学級にするということは、考えられないことはないかと思うが、意見としては検討委員会では出ていなかったの、これも報告書では含みのある内容でいただいて、やり方として検討の余地を残したほうが良いとも考えられる。

(課長) 1学級で30人とか35人というのは、今までの1学年2学級ということを生かして、規模が小さくなっても2学級でやっていくという考え方なのか。

(委員) 小規模校でも教育の質の保証ということが書かれている。1学級になると習熟度という方法もあるので学び直しの生徒や大学進学を目指す生徒にも対応できるかもしれないが、小規模校でも2クラスの方が教育の質を保証できるのではないかと思う。

(会長) P15の3つめの○で「すべての高等学校において、センター試験を受験し」とあるが、ここまで報告書に盛り込む必要があるのか。これは1つの大学入試の制度であって、例えば、国公立大学に進学できる学力をつけるというのはどうか。他にも工業高校でセンター試験をとという記載もあった。報告書では県の方向性、大きなところが盛り込まれていくのが良いのではないかと思う。

(企画監) そういう意見をいただいたことを検討委員会に説明する。

(会長) 最後に各委員から発言をお願いしたい。

(副会長) 確認をさせてもらいたい。P16からP17にかけて、規模に関する考え方について、最初にある、生徒数の減少に応じて学級数は減少するというのは当然で、次に、すべての学級数を一律に減らすのではなく、というのは地域の実情を見ましようということで、これも良くわかる。その際に高知市周辺部と中山間部の状況を見極めてということも良くわかるが、この後の高知市及びその周辺部においては適正規模を維持した状態、一定ニーズがあって生徒がいる状態が続くわけで、その段階でも定数を一定減少させると考えるのか、生徒数が減少して学級規模が維持できない状態になって減少させるのかで、全然違ってくると思う。ここの読み方によると、検討委員会委員長の私案のところにもあるが一極集中の流れに一定歯止めをかけるために高知市周辺の規模なり募集定員を一定抑制するとも読みとれる。現状としてニーズがあるから維持していくというように読めるし、逆にそうではなくて、ニーズはあるかもしれないが、流れをつくるという意味で高知市周辺地域については一定規模を維持できるけれども抑制していくというようにも読める。そのところはどちらなのか。

(企画監) 検討委員会では、全県的に生徒が減少するので、それに応じた減少は仕方ないが、それ以上の低減である $+\alpha$ については反対の意見があった。ここで結論を事務局では言えないが、どちらかと言うと $+\alpha$ の部分は必要ないという方向になりそうである。

(副会長) なぜ確認したかということ、一極集中の流れというのは、いろいろな条件

が絡みながらあるということで、これを募集定員とか定数をある程度動かすことで流れを止めるにはならないと思う。周辺からの通学方法、道路状況も良くなってきているので広範囲から集まるわけで、定数とか規模で一極集中を抑えるのは少し無理があると考えている。

(委員) P18の本校の最低規模について、現状では、41名以上(1学年2学級以上)であるが、例えば、四万十高校は普通科と普通科自然環境コースの2学級あるが今年度の1年生は23名と1学級規模をも下回っている。このような学校の学級数を今後どのように対応していくのか。

(企画監)再編振興の立場では、今の最低規模1学年2学級の基準から1学年20名以上と基準が見直された場合は、募集定員を減らし1学年1学級規模になるだろう。生徒の募集定員については、募集定員の管理において1学級の半分を満たない場合は1学級減の対応をしている。しかし、本校の最適規模が1学年20名以上の条件に変わった場合は、例えば、四万十高校においては1学級規模の学校に募集定員の管理上の変更になるであろう。募集定員については、再編振興とは別に募集定員管理で決めていくことになる。

(委員)親の立場から言えば、子どもたちのことに関して様々な議論をしていただきありがたく思っている。もし、中山間地域に住んでいる場合、子どもが高知市内の高校に進学したいと希望したら、親としては何とかしてでも希望通りの進学を支援するであろう。今は、定時制や通信制など色々な教育システムがあり、かなり手厚く生徒に支援をしてもらっている。現場の先生方が生徒に寄り添って頂いて、経済的に進学できない生徒には、このような方法があるよと知恵を授けていただき、子どもの可能性を具体的に示してもらうことが、親として一番いいことではないか。先生方には色々な取組をしていただいで感謝している。

(委員)この会に参加させていただき広い視野ができ、自分自身の勉強にもなった。各地域を回られ色々な立場の意見を聞いて頂いたと思う。この報告書には、色々な人々の意見を網羅していることがアピールしていれば良いなと思って読んだ。いろんな立場の意見を聞くことによって、一つの枠では表せない部分もある。高知市とその周辺を分けて考える点や、本校と分校を分けて考えることや、普通科と他の学科を分けて考えることにより、色々な立場の方々の考え方が網羅できている事がアピールできているのではないかと思う。この報告書をもって、今の厳しい状況をみんなで乗り越えていこうというのがアピールできればよい。この報告書は、皆さんの賛同を得るものとなっていると思う。

(委員)P17の定数削減についてであるが、子どもたち、特に、中学生は、自分の将来を大切にしようと思い、自分が進学したい高校をめざして、日々努力をして中学校生活を送っている。

そうした中で、多くの中学生が希望している「高知市及び高知市周辺の高校」の募集定員を、極端に、強制的に減らしてしまうことは、子どもたちの「やる気」や「意欲」、「中学校生活を真面目に、しっかりと頑張ろう」とい

った気持ちに悪影響を与えないか心配している。

また、一人一人の「進学したい高校に行ける」という可能性が狭められることは、本当の意味での、高知の将来の「振興」を考えたときに、疑問を感じるところがある。

子どもたちの意欲を落とさずに、「高知市及び高知市周辺の高校」への一極集中を回避するためには、やはり、まずは、他の地域の高校の魅力をどう高めていくか、こちらが先ではないかと考えている。他の地域に、中学生が行きたくなる高校を作ってからでないと、本末転倒になると思っている。

よって、「高知市及び高知市周辺の高校」の募集定員を極端に減らすことは、子どもたちのやる気や意欲、ひいては高知の振興にとってマイナスにならないか、不安を感じている。

- (委員) 報告書目次(原案)と報告書の作成に向けてについて項目に違いがある。どちらかに項目を合わせて最終的な報告書をまとめて行くのか。
- (チーフ) 報告書作成に向けての整理項目については、重複しているところがある。これを整理していくと報告書目次(原案)のような項目立てでとなり、報告書は目次(原案)の項目立てで作成されていくだろう。
- (委員) 南海地震に対する防災については、流れ的に違和感がある。第1回作業部会資料で示した再編振興計画の考え方には、南海地震に対する防災についてを1つの柱としているのでどこかに必要になると思うが違和感がある。整理項目の最後に、南海トラフ巨大地震に対する防災があり、現状と課題にも南海地震が出てきている。どちらかと言えば現状と課題かなと思う。また、最初に示した再編振興計画の考え方に高齢化社会への対応とあるが、考え方に示している割に記述が少ないと感じる。議論になっていなかったこともあるかもしれないが、産業振興を考えたときの延長上に高齢化社会への対応も含まれているのではないかと読み取れる。高等学校の再編振興計画の報告書は、教育関係者だけが読むのではなく、一般の方々も読むものであるので、教育用語については注釈が必要である。例えば、キャリア教育についても捉え方がまちまちである。県民が読んで分かりやすいように解説が必要である。
- (委員) P10の産業系専門学科全体の中に、センター試験への対応と出ているが、ここへの記述は必要ではないと思う。また、P11の工業では、他の産業系学科にない大学進学を意識した記述となっている。県内の工業高校を考えると、1校のみが大学進学を意識しているがその他の工業高校は就職に重点を置いている。以上の2点については記述等の表現を考えてもらいたい。
- (委員) 配慮を必要とする生徒に対して高等学校でどのような教育ができるかを中心に発言させてもらった。報告書の作成に向けてには、今までの発言や配慮を要する生徒への対応についてかなり具体的に踏み込んで述べられていると感じている。P14には具体的に述べられているので良い報告書であると感じている。

30分授業については、授業時間の弾力化という表現にした方が良いと感じる。先進的に取り組んでいるすべての学校が30分授業を取り入れている

わけではないので、授業時間の弾力化と表現する方が適切ではないか。進路をどう保障していくかの点は、P15の社会的自立にむけてのキャリア教育に網羅していると感じている。

(委員) P8から普通科高校から順に述べられているが、全般的に高校3年間の短期目標で述べられ、内容的には大学進学が中心となっている。普通科高校の使命で仕方がないものと思われるが、社会に出てから60～65歳までの長期的な目標の中での高校生活3年間や大学進学について述べられていればなおよかったと感じる。後半のキャリア教育では、各教科で取り組むことなど全体的なことが述べられており安心した。人材づくり、人づくりがベースとなり、社会に出てからの長い人生を考えた学校づくりであればありがたい。中学生の進路選択が多様となっている。それぞれの学校にそれぞれの役割がある。その中でシステム作りをして対応していると思う。小中学校と違って、同じ学校づくりには無理があり、各校の役割を考えると統廃合や規模縮小の論議が難しかった理由の一つでもあると思う。

工業高校については、モノづくりを知って大学進学し技術者となる生徒や国公立大学に推薦やAO入試を利用して進学している生徒もいる。しかし、工業高校では普通高校と同じように普通科目を学習することはできないので、普通高校と同じようにセンター試験に対応することは難しい。報告書の作成に向けては、工業高校にセンター試験に対応できる指導体制を整えることが必要であるとあるが、実際には、各校が国公立進学に向けた指導や取組を実施しているので、指導が求められているや、指導に努めなければならないといった記述の方がありがたい。体制づくりとなってしまうと、専門高校として違った方向にいつてしまう危険性もある。

(会長) その他はないか。

(委員) なし

(会長) 長い間ありがとうございました。以上で、作業部会を終了する。司会にマイクをお返しする。

<(3) その他> なし

3 閉会

(1) 閉会挨拶 (教育次長)

(2) 諸連絡